

発行：伊藤秀昭事務所
豊橋市東田町西前山144-14

ひであきレポート NO.78-3

【09 春】

ひであきレポート

原因を徹底究明し ウズラを守れ！

豊橋市のうずら飼育は、市内で約460万羽飼われて全国の約60%の圧倒的なシェアを占めて、年間7451トン、20億2000万円（06年度実績）を売り上げています。卵は生食用としても使われますが、多くは加工されて水煮やフライなどに利用されます。



この日本一のウズラの産地に衝撃が走っています。豊橋市南部のウズラ農場で飼育されているウズラ2羽から高病原性鳥インフルエンザウイルスH7型が

2月27日に検出され、3月4日には2件目の感染が明確になり、広がるばかりで、3月末までに発生農場は7例、殺処分されることになったのは162万羽となりました。

市内のスーパーでは、発覚以来卵が撤去されているところもあり、風評被害が心配されています。直接、ウズラとは関係なくても、豊橋の農畜産物という形で消費減退が危惧されます。

こうした現状に徹底した原因究明と、信頼の回復に全力を傾け、「豊橋のウズラを断じて守れ！」と伊藤ひであきは懸命に行動しています。

国会議員と共に現場へ



3月30日には衆議院議員（東海ブロック）伊藤 渉氏と市議会公明議員とともに、鳥インフルの現場へ。

発生農場で農場主や従業員の皆さんから様々な

直面する課題についてお聞きしました。ウズラ20万羽はすでに埋却処分され鶏舎のなかには一匹のウズラもいないなかで、不安と焦燥がありありとかがい知れました。

「どうして国は、殺処分を繰り返し、ウズラの事や、ウズラとともに生きてきた現場の声を取り入れてくれないのか！」怒りが渦巻いていました。

石破農水大臣に陳情

3月31日、には大沢議長と共に国会を訪れ近藤副大臣、石波農水大臣に陳情しました。これには愛知15区選出の山本明彦代議士や豊橋出身の公明党代表太田昭宏氏に同席していただきました。

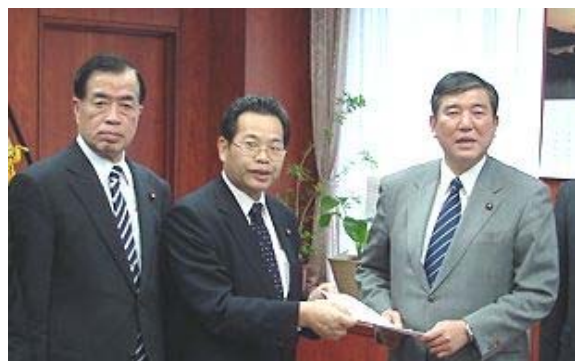
要望書にしたためたのは

感染経路の究明を急ぐと共にウズラに対応した防疫指針を早急に策定する事

家きん農家に対する収入補填などの助成制度を強化拡充する事

風評被害等の防止に向けた指導を徹底する事
発生に伴い、豊橋市が実施した諸対策の経費の財政措置の4項目。

大臣は「議会から要望があったことについては、十分にその意を汲んで取組みます」と応えていただきました。



36年の思いを込めた、万感の設楽ダム調印式

2月5日、設楽町田口の県奥三河総合センター講堂で国土交通省中部地方整備局と愛知県が、北設楽郡設楽町地内に建設する設楽ダムの損失補償基準および建設同意交渉がまとまり合同調印式が行われました。その歴史的現場に豊橋市議会を代表して参加させていただきました。

水没関係者はじめ設楽町、設楽町議会とそのOB、下流受益団体代表らおよそ300人が見守る中、豊川流域全体の一体的発展を願って、それぞれの代表が協定書に署名、押印しました。

昭和48年11月に計画申し入れ以降36年の歳月が流れ、貯水量9,800万ト、総事業費3,000億円の巨大公共事業「設楽ダム」はいよいよ建設に踏み込むこととなります。

設楽ダム対策協議会の久保会長は「本当に長い間、このダム計画と戦ってきた。今日の結末を知ることなく、他界した者も少なくない。私の妻もその一人です。補償基準の内容は、要望がすべて取り入れられたものだとは思っていないが、時代の流れや現在の社会情勢を認識し妥結を決めた」と訥々と挨拶されたのが印象的でした。

また、設楽町の加藤町長は「ダムは私たち地元が望んだものではありません。それだけに、町民の、特に水没地権者の気持ちにしっかり応えていただきたい。

そして生活再建、地域再生などの約束をきちんと果たし、“後世に残る立派なダム”にして欲しい」と訴えられ、凜とした言葉が会場に響きました。

佐原光一豊橋市長は下流受益地を代表して感謝の意を表した。「ダムに協力してくださる地権者のことを子々孫々に伝えたいといけない。東三河は運命共同体であり、奥三河の皆様へ感謝しながら奥三河の地域振興に尽くさせていただきたい。それなくして東三河の発展はない」と。

「できれば生まれ育った古里で生活を続けたいのが本音」と話された地元設楽町の加藤町長の言葉がいつまでも、耳にこびりついた。

そして、会場を後にして、設楽町役場の前を通り、257号線で稲武に向かう途中のあの赤い橋（設楽大橋）、その先の花桃の里の川向地区も水没するという重い事実を改めて確認した。



LRVとは Light Rail Vehicle (ライトレールビークル) の略。低床式の新しいタイプの路面電車車両のこと。

近年、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されています。

日本では、昭和40年代の急速なモータリゼーションの進展に伴い路面電車の廃止が続きました。現在では、豊橋を始め全国17都市で19事業者が営業

豊橋の路面電車の輸送人員推移

S38年	9,671千人(最高)
H13年	2,805千人
H14年	2,611千人
H15年	2,606千人(最低)
H16年	2,629千人
H17年	2,840千人
H18年	2,887千人
H19年	2,877千人

一日平均7900人の乗降客が何とかあと1000人増えることが路面電車活性化の当面の目標。

豊橋のまちを LRVが走り出した

豊橋鉄道が、市内線（路面電車）に導入した全面低床電車（LRV）「ほつらム」が昨年の12月19日から始まり、平日には13往復、土休日に11往復、軽快に走っています。

初の国産車両、斬新なデザイン、バリアフリーに対応、座席数29、定員74人3車体連接2台方式の車両で、振動・騒音が削減できるほか、カーブの通過が容易になるような設計になっています。

2005年暮れに、LRV導入をメインとした「豊橋路面電車活性化事業計画」（LRT計画）の承認を受けて事業化以来、3カ年がかりで実現した、市民待望のLRVです。

「市電を愛する会」の皆様を中心に商工会議所や企業・個人篤志家などの皆さんが3400万円の浄財が寄付され、市民協働の代表的モデルとなりました。今日も順調に走っています。



政治は庶民の生活に敏感たれ！

春を呼ぶ“三点セット”

出口の見えない不況に突入し、冷え込む家計にとって“春を呼び込む一筋の光”となろう。

景気対策などの財源確保に必要な2008年度第2次補正予算の関連法が3月4日、再可決され、やっと成立した。

これで「定額給付金」「子育て応援特別手当」「高速道路料金引き下げ」の“春を呼ぶ3点セット”の実現が確定し、翌3月5日には青森県西目屋村などでいち早く給付金の給付が始まった。

定額給付金で内需の拡大

かつてない勢いで景気が減速する中、定額給付金を実施する意義は以前にも増して大きい。未曾有の危機から脱出し、持続的な成長をめざす上でカギを握るのは「内需の拡大」であるはず。

世界経済の減速で日本の「外需依存型経済」は、もはや崩壊したに等しい。国内総生産（GDP）は年率12.7%と35年ぶりの落ち込みを記録したのも、外需依存の成長に限界が生じたことにほかならない。

総務省の1月の家計調査でも、2人以上の世帯の消費支出が実質



で11カ月連続のマイナスである。景気悪化や雇用不安の広がりを背景に、国民の財布のヒモは固い。

こうした現状を考えれば、定額給付

金が生活支援や消費刺激策として重要であることは誰の目にも明らかだ。

子育て世代を応援

また、子育て世代で話題の「子育て応援特別手当」への反響も大きく、給付を望む声は強い。

それもそのはず。賃金は伸び悩み、回復の実感なきまま、好景気に終止符が打たれて、特に、子育て世帯の負担は増す一途で、毎日のやりくりで悲鳴を上げる家庭も少なくない。

この手当は、教育費がかさむ幼児教育期（小学校就学前3年間）の第2子以降の児童1人当たり3万60

00円を一時金として支給するもの。子育て世帯には“ビッグボーナス”となるに違いない。

高速道路料金の引き下げで観光活性
高速道路料金の引き下げは満開の桜で心を和ませようと出かける人にとって朗報であろう。

地方の高速道路は普通車などを対象に、土・日・祝日は終日、上限1000円で走り放題に。首都高速道路、阪神高速道路などでも割引が拡充される。いずれも3月28日から実施される予定です。観光需要の増加だけでなく、運送業のコスト削減などの経済効果にも期待したい。

伝わってこない政治家の気迫

それにしても、定額給付金の論じられ方に釈然としないものを感じていた。受け取る人間はさもしいか、さもしくないか。首相は受け取るのか、受け取らないのか。ミモフタもない味気ない議論ばかりであり、100年に一度の危機に挑む政治家の気迫、聞き応えのある政策論争などは地方には全く伝わってこなかった。

そして、目を覆う日本の政治の惨状に国民の怒りは様々に沸騰している。

「救命道具と特権を持つ人たちは安易に『国民の目線』などと、語らないで下さい」

「政治家の皆さんは、自分が何のために仕事をしているのか、もう一度、よく考え直せ」など暇がない。

庶民の生活に敏感かどうか

一方で、始まった定額給付金の支給開始。笑顔が春を呼び、笑顔が日本列島を包みだしました。

すると、TBSテレビの「朝ズバ」でバラマキ批判を繰り返してきた“みのもんたさん”が3月7日に放送された文化放送のラジオ番組「ウィークエンドをつかまえる」で「なんだかんだ言っても、もらって喜んでいる人の姿を見ると、定額給付金よ、ありがとうだね。予算もいい内容だ。この僕がほめるんだから珍しい。マスコミの報道のあり方も反省しないとイケないな」と発言し、潮目が変わりました。

「高き屋に登りて見れば煙立つ、民のかまどはにぎわひにけり」（新古今和歌集）の和歌のように「民の竈（かまど）に敏感な、即ち庶民の生活に敏感かどうかは政治の鉄則です。

けなげに生きる庶民が満願の笑顔を呼び戻した施策の展開はまさに100年に一度の事ではないか。

春を呼ぶ3点セット！いよいよ始まる

定額給付金

支給対象：国民全て、一人当たり1万2千円。65歳以上（S19年2月2日までに生まれた方）と18歳以下（H2年2月2日までに誕生）は8千円加算。豊橋市で38万6千人、総額58億円。

子育て応援手当

支給対象：第1子が18歳までで、第2子以降の子で02年4月2日～05年4月1日生まれの子。一人当たり3万6千円。豊橋市で6000人、総額2億円。

【豊橋の給付までの流れ】

- 豊橋市議会で補正予算が成立（3/12）
- 世帯主に申請書郵送（4月2日以降）
- 世帯主から申請受け付け開始（4月6日以降）
- 世帯主の口座に振り込み開始（4月下旬より順次、申請から振り込みまで約1ヶ月をメド）
- 現金給付（通帳がないなどの場合、本庁のみで受付）7月1日～10月6日
- 定額給付金についての問い合わせは電話51-3210へ
午前9時から午後7時。



豊橋市では、事務局を設置して支給準備に大忙しです。

高速道路1000円

土日祝は、どこまで走っても1000円、それを下回る区間は終日半額。3/28開始。平日は全車種対象に昼間3割引。首都高速、阪神高速は土日祝は500円、アクアライン、本四連絡橋1000円。（3月12日からETC車載器の購入者に対し助成も始まっています。詳細は取扱店で）

春です！子育て支援が前進します

 ＊ 子ども医療費助成拡大 ＊
 ＊ 小学6年生までの通院費 ＊
 ＊ が無料になります。入院費 ＊
 ＊ は今までどうり中学3年生 ＊
 ＊ まで無料。 ＊
 ＊*****

 ＊ 妊婦健診助成回数、出 ＊
 ＊ 産育児一時金増額 ＊
 ＊ 妊婦健診助成を14回ま ＊
 ＊ で拡大、出産育児一時金は ＊
 ＊ 38万円を10月から42万円 ＊
 ＊*****

 ＊ AED設置費補助金 ＊
 ＊ 児童の安全を確保し、保 ＊
 ＊ 育環境を充実するために全 ＊
 ＊ ての幼稚園、保育園にAED ＊
 ＊ が設置されます。 ＊
 ＊*****

 ＊ 児童クラブ、放課後子 ＊
 ＊ ども教室 ＊
 ＊ 旭校区市民館で児童クラ ＊
 ＊ ブが始まります。また、子 ＊
 ＊ ども教室が賀茂、下条で。 ＊
 ＊*****



福岡市の「ロボスクウェア」で

市民相談は伊藤ひであきへ
 電話 53-3483
 迅速・丁寧・即決

法律相談をお気軽に 会場：市民文化会館第6会議室 時間：午後6時半より
 日程 4月3日・17日・5月1日・15日
 6月5日・19日・7月3日・17日